



鍛えたい「ノート・スキル」とは

今回も『授業研究21』から「鍛えたいノートスキル」について引用します。
第1号でも紹介した高崎経済大学教授・池野正晴氏の論文からです。

鍛えたい「ノートスキル」とは

発達段階によって少しずつレベルはちがいますが、基本的に必要なノートの技能というものはあると思います。

それについて池野氏は箇条書きで15点挙げておられます。



- 「問い」に対する自分のなりの解法を考える。(導入題を通して「本時の問い(追求題)」が明確になってくる)
- 「問い」に対応する形で、まとめの部分を書くことができる。「問い(追求題)」と「答え(解法)」をセットで考える)
- 言葉、絵図、数式、表、グラフ等で自分の考えを表現する。
- 間違いに気づいても、自分の考えは消さない。(たいせつにする)
- 自分の考えとしていくつかの考えが浮かんだ場合には、すべて記入するようにする。
- 発表段階で知った、友だちの考えもメモするようにする。(授業ではそのための時間を確保する)
- 気づいたことは、できるだけメモしておく。(討論でも)
- いろいろな考えを比較した場合、自分なりに長所、弱点を検討し、メモしておく。(判断、発言に通ず)
- 考える時間と書く時間を^{わきま}弁える。
- 板書の内容でも、自分で取捨選択して書く。
- 省略語やキーワードを使う。
- 一段落したところで、授業の振り返りをする。
- ワークシートなどは貼っておく。
- 自分なりに書くための工夫をする。
- 「すばやく、簡潔に、すかさずと(詰めない)」を心がけ実行する。



以上のスキルは「算数・数学科」のために書かれたものですが、他の教科にも大いに応用できると思います…というか、全く同じでいいのではないのでしょうか。

これらにはさまざまなくレベルの指導>が混ざっており、一朝一夕で身に付くものではありませんし、学級内での個人差も大変大きいでしょう。

自分のクラスにあったものを順番に取り入れることで、少しずつ身についてくるものだと重宝します。しかし、それを6年間積み重ねると<子どもの自己学習力>にとっても大きな力となるとと思いますが、どうでしょうか。